

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和2年2月3日（月） 南日本新聞

さつま町の「みやんじょ吹奏楽フェスタ」に参加した本校吹奏楽部の上原さんのコメントが、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

## 吹奏楽の町盛り上げ20年



### さつま「みやんじょフェスタ」

## 地元出身プロら招き祝う

さつま町の吹奏楽団体が一堂に集う「みやんじょ吹奏楽フェスタ」が1月26日、宮之城文化センターであった。21世紀の幕開けに「吹奏楽の町」をアピールしようと始めて20回目。小中高校、一般など5楽団が競演、町出身のプロも駆け付けて、節目の演奏会を会場と一緒に盛り上げた。

同町では戦前から吹奏楽が盛ん。フェスタは活動中の楽団のほか、「昔を思い出して楽器を手にしませんか」と吹奏楽経験者に

から10曲を披露し、約600人が一流奏者の音色に聴き入った。恒例の大合奏では高校生から80代の吹奏楽経験者、シバングのメンバー計約60人が息の合った演奏を聴かせ、締めくくりに「ふるさと」には、客席の歌声も加わった。

薩摩中央高校吹奏楽部の上原麻奈さん（2年）は「部員4人の小所帯なので、大編成のステージは音の迫力に感動した」。

宮之城吹奏楽団OBでもある岸良さんは「楽しくアットホームな舞台。吹奏楽が盛んな宮之城の名は全国で知られており、誇りに思う」と語った。

（本坊弓子）